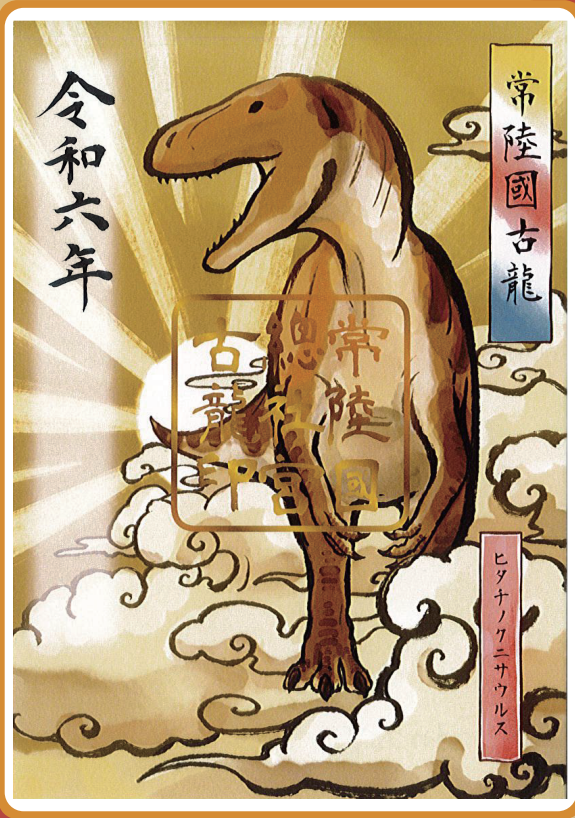


「古龍印」とは？



常陸國古龍
ヒタチノクニサウルス



佐志能滄龍
サシノサウルス

常陸國總社宮では令和6年の干支「龍／辰」にちなみ、「古龍印（こりゅういん）」の授与を始めました。ここでいう「古龍」とは、太古の地球上に実在した恐竜などをイメージして、瑞祥の象徴である龍の仲間として新たに位置付けたものです。

「何故神社が恐竜？」と不思議に思われるかもしれませんが、実は、これにはとある理由があるので

形にしてみました。誰もが知っているティラノサウルスと同じ「獣脚類」で、白亜紀の常陸国を闊歩した、陸の王者をイメージしています。

そしてもう一方は「佐志能滄龍（サシノサウルス）」。

滄龍とはモササウルス類に用いられる名称で、白亜紀の海に生息していた爬虫類のグループ。では「佐志能（サシノ）」とは何でしょうか？

実は常陸國總社宮が鎮座する石岡市にも恐竜時代（ジュラ期～白亜紀）の海の地層が存在することをご存知でしょうか？それは同市染谷、「常陸風土記の丘」の裏手にある波付岩の周辺です。

現在、日本各地で恐竜の化石が次々に発見されていることをご存知ですか？今から46年前となる昭和53年、岩手県でのモシリユウの発見を皮切りに、現在まで恐竜化石の発見が相次いでいます。兵庫県のタンバリュウ、福井県のフクイサウルス、北海道のムカワリュウなど、現在は全国1道18県で見つかっています。

この場所は常陸國總社宮が兼務する佐志能神社の境内地で、筑波山地域ジオパークを構成する要素（ジオサイト）となっています。サシノサウルスは、恐竜時代の常陸国の海をゆうゆうと泳いでいた巨大な滄龍を具現化したものなのです。

2体の「古龍」のイラストを手がけて下さったのはイラストレーター1のツク之助さん。茨城県自然博物館の展示をはじめ、恐竜や爬虫類の専門的な復元図などを描き、絵本や書籍の挿絵やカプセルトイなども手掛けて活躍。近年は人気絵本「フトアゴちゃんのパティ」の作者としてもよく知られています。

常陸国（茨城県）ではまだ、恐竜の化石は見つかっていません。しかし、ひたちなか市にある白亜紀の地層「那珂湊層群」では茨城県自然博物館の調査により、同時代のスポンの化石が見つかるなど、恐竜発見の機運が徐々に高まっています。実は太古の海に生息した「モササウルス」の化石は、既にこの場所から発見されているのです。

そこで当神社ではいつか常陸国で発見されるであろう恐竜を「常陸國古龍（ヒタチノクニサウルス）」と名付け、想像上の姿を

監修・協力：加藤太一
（ミュージアムパーク
茨城県自然博物館 学芸員）

私たちのくにそうしやぐう



常陸國總社宮

〒315-0016 茨城県石岡市総社2-8-1
TEL.(0299)22-2233 FAX.(0299)22-3846
www.sosyagu.jp